

## 平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年8月15日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社ジー・テイスト  
 コード番号 2694 URL <http://www.g-taste.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 稲吉 史泰

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 岩崎 友也

TEL 022-237-5566

四半期報告書提出予定日 平成23年8月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第1四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	4,167	1.5	250	—	237	—	166	—
23年3月期第1四半期	4,104	—	△101	—	△123	—	△582	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	2.51	2.25
23年3月期第1四半期	△10.97	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第1四半期	11,885	4,240	35.7	63.47
23年3月期	11,763	4,039	34.3	61.38

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 4,239百万円 23年3月期 4,038百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成24年3月期の配当予想額につきましては、事業環境の先行きが不透明であることから現時点では未定とし、業績等を勘案いたしました上で速やかに開示するものといたします。

### 3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,102	△8.3	168	—	150	—	48	—	0.73
通期	16,356	△7.6	377	868.2	361	—	211	—	3.16

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期1Q	66,792,955 株	23年3月期	65,792,956 株
24年3月期1Q	798 株	23年3月期	698 株
24年3月期1Q	66,184,643 株	23年3月期1Q	53,099,678 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しており、四半期レビュー報告書を本日付で受領しております。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- (2) 第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成23年8月15日公表の「平成24年3月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. 四半期財務諸表 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	6
(4) 追加情報 .....	6
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による大被害を受け、混乱の続く先行き不透明な中でスタートいたしました。また、復旧に向けた矢先の平成23年4月7日の大規模余震で、多くの企業の復興の足止めとなり、個人生活へもさらに深刻な影響を及ぼしました。その後、生産活動の復旧に伴い一部で景況感の改善は見られましたが、福島原子力発電所の事故に端を発する電力供給不安や風評被害、被災地での復旧の遅れなど先行きに対する不透明感や雇用に対する不安は依然改善傾向が見られないことから引き続き厳しい環境で推移していくと予想されます。

このような状況のもと、当社では、不採算店舗の撤退をすすめコスト削減を図りながら、業績回復を目指してまいりました。「復興のシンボルとなれるような会社に絶対しよう」を合言葉に、復興応援をテーマに掲げた「フェア」の開催や季節ごとのキャンペーンメニューの導入など、お客様満足度の向上とともに被災地にある企業として復興の一助となるよう取り組んでまいりました。

当初は、余震への警戒や節電による営業時間の短縮等により減収となることを見込んでおりましたが、震災地の需要が高まり、想定しておりました震災による来店客数の減少や物流への影響は比較的回復が早く、多くの皆様からのご支援をいただきながら順調に推移してまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高41億67百万円（前年同四半期比1.5%増）、営業利益2億50百万円（前年同四半期は営業損失1億1百万円）、経常利益2億37百万円（前年同四半期は経常損失1億23百万円）となり、四半期純利益1億66百万円（前年同四半期は四半期純損失5億82百万円）となりました。

セグメント業績は、次のとおりであります。

寿司事業における当第1四半期会計期間末の直営店舗数は、不採算店舗2店舗を撤退し直営店舗79店舗、FC店舗14店舗となりました。寿司事業においては、震災により主力エリアの一部店舗での休業や営業時間の短縮がありましたが、グランドメニューの変更や、期間限定フェアの開催等ほぼ前期同様に取り組むことができました。平成23年4月の「春らんまん」、6月の「旬夏だより」と旬の食材を活かした商品をお客様に提供したほか、「復興応援企画」として被災地に元気をお届けできるような企画も実施いたしました。この結果、売上高14億60百万円（前年同四半期比4.3%減）、セグメント利益（営業利益）1億76百万円（前年同四半期比339.9%増）となりました。

居酒屋等事業においては、不採算店舗である7店舗を閉店しましたが、前期閉店しておりました1店舗で営業を再開し、当第1四半期会計期間末の直営店舗数は137店舗、FC店舗は291店舗となりました。主力業態である「とりあえず吾平」では「たのしい給食時間」フェア、「男飯メニュー」など工夫をこらしたフェアを実施、また、「ちゃんこ江戸沢」では「火鍋&スープ餃子鍋」や月替わりのランチメニューを導入、「村さ来」では平成23年4月にグランドメニューを一新し、6月には「食べて元気に！」キャンペーンを実施するなど、集客とメニューの充実に重点を置いた結果、売上高24億45百万円（前年同四半期比2.1%増）、セグメント利益（営業利益）2億83百万円（前年同四半期比353.1%増）となりました。

教育事業における当第1四半期会計期間末の直営校舎は40校舎となりました。英会話教室では新規生徒獲得が順調に進んでおりますが、学習塾では震災影響による生徒数減少が進み、平成23年3月から4月の需要期に新規入会促進の機会を逸していることから、生徒数の回復が課題となっております。この結果、売上高1億61百万円（前年同四半期比19.7%増）、セグメント利益（営業利益）28百万円（前年同四半期比229.7%増）となりました。

その他事業には、不動産賃貸料収入等が含まれ、当第1四半期累計期間におきましては、売上高99百万円（前年同四半期比103.2%増）、セグメント利益（営業利益）17百万円（前年同四半期比8.1%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期会計期間末の総資産は118億85百万円となり、前事業年度末より1億21百万円増加しております。その主な要因は現金及び預金の増加3億30百万円、敷金及び保証金の減少2億13百万円によるものであります。

負債総額は76億44百万円となり、前事業年度末より79百万円減少しております。その主な要因は、長短借入金の減少1億96百万円、社債（新株引受権付社債を含む）の減少50百万円、引当金（退職給付引当金を含む）の減少1億24百万円、買掛金の増加56百万円、その他流動負債の増加2億66百万円によるものであります。

純資産は42億40百万円となり、前事業年度末より2億1百万円増加しております。その主な要因は資本金17百万円の増加、四半期純利益1億66百万円の計上による利益剰余金の増加によるものであります。

### (3) 業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向等を踏まえ、平成23年3月期決算発表時（平成23年6月29日開示）に開示いたしました平成24年3月期第2四半期累計期間業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（平成23年8月15日）開示しております「平成24年3月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	731,530	1,062,231
受取手形及び売掛金	188,523	188,492
商品	18,569	17,774
原材料及び貯蔵品	111,793	116,839
その他	532,210	635,428
貸倒引当金	△9,339	△11,169
流動資産合計	1,573,288	2,009,596
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,414,810	2,364,942
土地	2,158,363	2,158,363
その他(純額)	255,446	246,302
有形固定資産合計	4,828,620	4,769,608
無形固定資産		
のれん	757,526	732,895
その他	65,795	66,167
無形固定資産合計	823,321	799,062
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,689,884	3,476,627
その他	1,021,369	1,002,096
貸倒引当金	△172,719	△171,541
投資その他の資産合計	4,538,534	4,307,182
固定資産合計	10,190,476	9,875,853
資産合計	11,763,764	11,885,450
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	367,825	424,210
短期借入金	966,740	843,572
1年内返済予定の長期借入金	1,244,740	1,317,421
未払法人税等	87,328	122,767
引当金	276,248	152,506
資産除去債務	22,868	22,065
その他	1,276,628	1,542,658
流動負債合計	4,242,377	4,425,201
固定負債		
社債	75,000	60,000
新株予約権付社債	545,000	510,000
長期借入金	1,388,796	1,242,682

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成23年6月30日)
退職給付引当金	74,114	73,725
資産除去債務	595,615	567,895
その他	803,416	765,295
固定負債合計	3,481,942	3,219,598
負債合計	7,724,320	7,644,800
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,634,628	1,652,128
資本剰余金	2,525,049	2,542,549
利益剰余金	△121,306	44,910
自己株式	△69	△74
株主資本合計	4,038,301	4,239,514
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7	—
評価・換算差額等合計	7	—
新株予約権	1,135	1,135
純資産合計	4,039,444	4,240,649
負債純資産合計	11,763,764	11,885,450

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	4,104,003	4,167,086
売上原価	1,441,002	1,431,959
売上総利益	2,663,001	2,735,127
販売費及び一般管理費	2,764,960	2,485,011
営業利益又は営業損失(△)	△101,959	250,116
営業外収益		
受取利息	1,372	1,989
受取配当金	473	131
デリバティブ評価益	—	10,114
負ののれん償却額	12,192	12,192
雑収入	1,953	8,227
営業外収益合計	15,991	32,653
営業外費用		
支払利息	22,519	23,334
為替差損	6,713	11,672
雑損失	8,162	10,750
営業外費用合計	37,395	45,757
経常利益又は経常損失(△)	△123,363	237,012
特別利益		
貸倒引当金戻入額	84	—
有価証券売却益	1,999	12
店舗閉鎖損失引当金戻入額	3,833	—
債務保証損失引当金戻入額	2,564	—
特別利益合計	8,482	12
特別損失		
固定資産売却損	874	—
固定資産除却損	951	—
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	1,155
減損損失	—	712
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	335,939	—
特別損失合計	337,764	1,867
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△452,645	235,157
法人税、住民税及び事業税	23,096	23,426
法人税等調整額	106,939	45,512
法人税等合計	130,036	68,939
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△582,681	166,217

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(表示方法の変更)

従来、飲料会社から受取る専売契約料収入について、営業外収益「受取手数料」に計上しておりましたが、当第1四半期会計期間より、「売上高」に含めて計上する方法に変更いたしました。

当該変更は、フランチャイズ展開の戦略上、そのファクターとして専売契約料の重要性が増してきたこと、また、前事業年度におけるフードインクルーヴ株式会社との合併によりフランチャイズ店舗が増加したことに伴い、その金額的な重要性も高まったことから、これを機に、専売契約料を活用した多様なフランチャイズ戦略及び店舗運営戦略の展開を図るという事業方針の決定に基づくものであり、事業運営の実態をより適切に表示するために行ったものであります。

また、従来、不動産賃貸料収入及び不動産賃貸原価については、営業外収益「不動産賃貸料」、営業外費用「不動産賃貸原価」に計上しておりましたが、当第1四半期会計期間より、それぞれ「売上高」、「売上原価」に計上する方法に変更いたしました。

当該変更は、店舗施設の投資効果を考えるうえで、不採算店舗を閉鎖するに当たり、賃貸借契約期間の満了までの後継テナントへの転貸等、店舗施設の有効活用の重要性が増してきたことに伴い、会社が所有する不動産、賃借資産の直接的な店舗運営に加えて、不動産賃貸事業を主要事業の一つとして位置づけるという事業方針の決定に基づくものであり、事業運営の実態をより適切に表示するために行ったものであります。

この表示方法の変更を反映させるために、前事業年度の貸借対照表及び前第1四半期累計期間の四半期財務諸表の組替えを行っております。この結果、前事業年度の貸借対照表において、固定負債「長期前受収益」に含めていた123,114千円を流動負債「その他」に、投資その他の資産「繰延税金資産」に含めていた50,021千円を流動資産「その他」に、投資その他の資産「投資不動産」327,531千円を有形固定資産「建物」75,435千円、有形固定資産「土地」248,398千円、有形固定資産「その他」3,697千円にそれぞれ組替えており、また、前第1四半期累計期間の四半期損益計算書において、営業外収益「受取手数料」、「不動産賃貸料」としてそれぞれ表示していた39,832千円、49,005千円は「売上高」に、営業外費用「不動産賃貸原価」として表示していた32,447千円については、「売上原価」として組替えております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。